

# 特別講演会

## 仏教の「止観<sup>し かん</sup>」と“マインドフルネス” ～その特徴と問題点～



仏教における心の観察は止観と呼ばれる。止は心の働きを静める、観はあらゆる心の働きを見つめる観察を指す。一方、現在、市民権を得つつあるものがマインドフルネスである。こちらは臨床心理学の世界で注目されて久しいが、起源は仏教の伝えた観察にあつたとされる。しかし、両者の特徴やその問題点は、ほとんど論じられることはない。今回は、仏教の伝えた心の観察法を具体的に整理するとともに、マインドフルネスがどのようなものであるのかを明らかにし、その問題点も考えたい。

講師

**袁輪 顕量** (みのわ けんりょう)

1960年千葉県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は日本仏教、仏教思想史。著書に『中世初期南都戒律復興の研究』(法蔵館)、『仏教瞑想論』(春秋社)、『日本仏教史』(春秋社)など。監修に『実践！ 仏教瞑想ガイドブック』(サンガ)、『マインドフルネス 仏教瞑想と近代科学が生み出す、心の科学の現在形』(同)など。

2017年

10月14日(土) 午後2:00～3:30

花園大学教堂

定員 120名

参加費 無料

大学構内に駐車できません。  
お越しの際は公共の交通機関をご利用ください。

↓ 事前のお申し込みが必要です。

申込先

花園大学国際禅学研究所

Eメール: [kokuze@hanazono.ac.jp](mailto:kokuze@hanazono.ac.jp)

電話: 075-823-0585 FAX: 075-279-3641